弔辞

高橋武彦先生のご逝去を悼む

前会長　太　田　時　男

平成7年6月7日、本会幹事、名古屋大学名誉教授高橋武彦先生が、永眠された。このことは、筆者がサンパウロ大学における1カ月の講義を終え、帰国して1か月後に知った。化学的直接発電のわが国における権威として、また、固体エレクトロニクスの研究開発に目覚ましい成果を挙げられた先生は、本会の母体であるDEC(エネルギー変換懇話会)へは、その発足後間もなく参加され、筆者とは30数年の仲で、まことに哀悼の極みである。かけがえのない人を、また、一人失った思いである。

先生は大正5年4月に静岡に生まれ、昭和16年東北大学工学部化学科を卒業されて、名古屋大学講師に着任され、助教授を経て、34年に教授に就任された(工学部応用化学教室)。55年に名誉教授となられるまでに、数多くの優れた弟子を養成され、41年に燃料電池の研究で電気化学協会論文賞を受けられた他、56年には固体イオニクスの研究で応用物理学会賞を授与された。

確か、この固体イオニクスとうい今は定着している述語は先生の命名ではなかったかと記憶している。

筆者は高橋先生と学術上のことなどで幾度かの指導を受けたり、勧告を頂いたりした。そのうち、記憶に明瞭なものを挙げておきたい。

1983年にHESS創立10周年を迎え、記念国際シンポジュウムを開催したが、その時筆者はカナダやアラスカからの電解水素の輸入計画のfeasibility studyについて述べた(今のWE-NET計画そのものである)。その時、高橋先生は水電解の効率について、筆者のestimationの甘すぎることを指摘されたのであったが、今昔の感なきを得ない。

1993年の夏の第1回新エネルギーシステム国際会議(議長筆者)を横浜で開催した時、「参加するのを楽しみにしているよ」と言ってよこされたが、お姿が見えず気にしていたところ、からだの調子がどうも良くなくていけなかった。Proceedingが見たい、といわれるのでお送りした。その年の12月15日、テクノバ主催で、熱電研究会の発足祝賀会があり、その席で、おやつれになった先生にお会いした。HESSのことを、いろいろ心配され、「太田さんのことだからお任せしておいて間違いないだろうが、HESSの役員人事など会員に見える形にした方がよい」という主旨のご注意を受けた。伊原征治郎君が会場におられたので、呼んでこのことについて相談したのが、私が高橋先生とお話する最後となった。

本会の創設の頃から親身になってご指導を頂いた先生に会を代表して心からお礼を申し上げるとともに、永久なるご冥福をお祈りしたい。
(平成7年8月14日)